

平成19年2月

清水好恵 学位論文審査要旨

主査	中島健二
副主査	井上幸次
同	大浜栄作

主論文

Cortical Lewy bodies in Parkinson's disease and Parkinson's disease with dementia

(パーキンソン病と認知症を伴うパーキンソン病の脳皮質におけるレビー小体)

(著者：清水好恵、宮田 元、井上一彦、中野俊也、大浜栄作)

平成19年8月 Neuropathology 27巻掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、PD 14例および PDD 9例の剖検脳におけるLBsの分布と数を α -シヌクレインの免疫組織化学により検索し、認知症との関連を検討したものである。その結果、LBsは、PDDのみならず認知症を示さなかったPDにおいても、扁桃体を含む大脳辺縁系および新皮質に多数出現していることを明らかにした。このことから、辺縁系や新皮質のLBsはPDDやDLBにおいても認知症の唯一の責任病巣ではないことが示唆された。さらに、本研究と既報告を検討した結果、現在国際的に使用されているDLBの病理診断基準では、PD、PDD、DLBの病理学的鑑別は不可能であることを明らかにした。本論文の内容は、臨床神経病理学の分野で、PD、PDD、DLBを特徴づける病理変化であるLBsの意義について、その一端を明らかにしたものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。